

安心・安全な離島生活を営むためには

離島で安心・安全な生活を営むためには、災害への備えと島民・観光客双方の意識向上が不可欠だ。式根島の現状を踏まえると、大きく二つの課題が浮き彫りになる。

まず、災害時における島民の避難生活に関する課題だ。式根島は、南海トラフ地震による直接的な被害は比較的少ないと想定される。しかし、その後の避難生活をいかに維持するかが重要な課題となる。具体的には、食料や水の確保、衛生環境の維持、医療体制の確保などが挙げられる。特に、高齢化が進む島では、災害関連死のリスクも考慮する必要がある。また、電力供給を新島からの送電に依存しているため、災害時の停電による生活インフラの寸断も懸念される。自家発電設備の導入や、EVを活用したバッテリーシステムの構築が急務だ。

第二に、観光客の防災に関する課題だ。式根島は観光地として多くの観光客が訪れるが、観光客向けの避難対策は十分とは言えない。例えば、案内板の不足が挙げられる。特に、夏季の観光シーズンは多くの観光客が訪れるため、十分な備蓄と避難体制の確保が求められる。観光客は土地勘がないため、災害発生時には島民以上に情報提供や誘導が必要となる。

これらの課題を解決するために、以下の対策が考えられる。まず、島内での電力自給体制の確立だ。太陽光発電や風力発電など、再生可能エネルギーの導入を促進し、分散型電源システムを構築する必要がある。次に、食料・水の備蓄状況を常に把握し、管理体制を強化する。備蓄品の定期的な点検や更新、賞味期限の管理を徹底し、災害時に迅速な供給体制を構築する。観光客向けの避難経路の明確化、案内板の設置、避難訓練の実施など、具体的な対策も不可欠だ。例えば、式根島に到着するまでの船の中で観光客向けに説明を行うなどだ。その他、観光客向けの防災マップの作成や、多言語対応の案内表示も検討すべきである。

これらの対策を実施する上で、いくつかの副作用も考慮する必要がある。例えば、再生可能エネルギー設備の導入は初期コストが高く、景観を損ねる可能性もある。しかし、長期的な視点で見れば、エネルギーコストの削減や環境負荷の低減につながる。

式根島が真に安心・安全な島となるためには、島民と観光客が一体となり、災害に強い島づくりを進めることが重要だ。そのためには、継続的な情報共有と意識向上が不可欠であり、地域全体で防災に取り組む姿勢が求められる。(992字)